

A・MUSEUM

vol.67
[2011.6.15]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館

大震災から学ぶ

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

この震災では、茨城県下においても多くの貴い人命や貴重な財産が失われ、各方面に甚大な被害をもたらしました。また、震災に伴う東京電力福島第一原発事故は農業・漁業などの産業に悪影響をおよぼすなど、放射性物質による汚染というその特殊性から健全な暮らしを営む人々の未来へのリスクを高め、社会的な不安を招いています。

これを、予想を超えた規模の津波にすべての原因がある、と断じることが危険です。科学技術の進歩は人間に多くの恩恵を与えてくれますが、時として大きな災いをもたらします。人の手により起こされた災いは、人の手により取り払わなければなりません。被災地の一日も早い復興を願うとともに、悲惨な災害を再び繰り返すことがないように、コスト意識のなかに埋没した「安全」を、忍耐と不便をも覚悟した英邁なる国民の手により一刻も早く掘り起こすことが大切です。



ミュージアムパーク 茨城県自然博物館
館長 菅谷 博



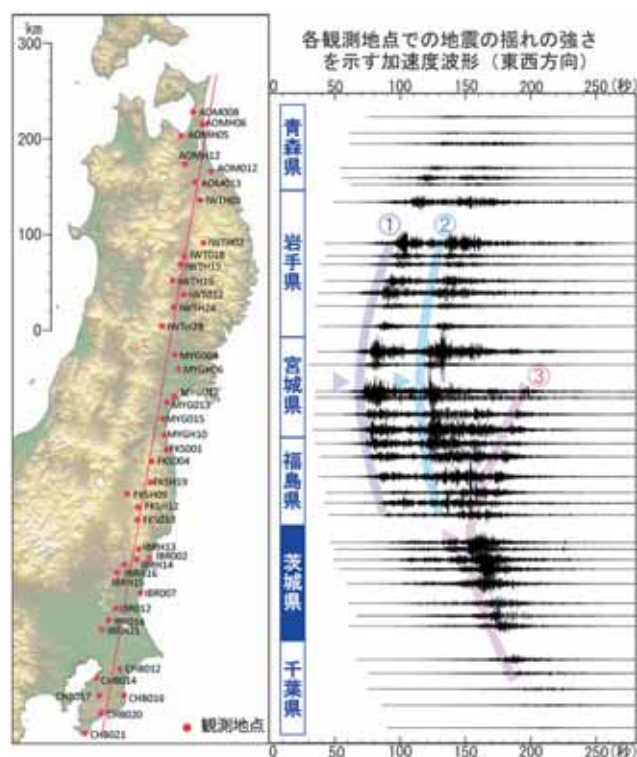
東北地方太平洋沖地震はなぜ起こったのか

3月11日午後2時46分、日本では観測史上最大規模となるマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が起きました。この巨大地震では、最大震度7の激しい揺れとともに、大津波が発生して東北地方などの太平洋沿岸が壊滅的な被害を受けました。また大規模な液状化現象や地盤沈下、原子力発電所の重大事故も発生し、死者・行方不明者が2万人を超える大震災となりました。

茨城県も、大津波や激しい地震動などによって大きな被害を受けました。当館がある坂東市でも、震度6弱の激しい揺れが観測されました。



地震で路肩が崩落し、津波でなぎ倒された海岸林（いわき市）



東北地方太平洋沖地震で観測された地震動
①三陸沖、②宮城県沖、③福島県～茨城県北部沖を震源とした地震が発生していたことがわかる（東京大学地震研究所資料を一部修正）

大地震の発生のしくみと特徴

東北地方は北米プレートとよばれる厚さ100kmほどのプレート（岩板）の上であり、その東側から下に太平洋プレートが年間約8cmの速さで沈み込んでいます。今回の地震は、この2枚のプレートの境界部で年々蓄積されたひずみが一気に解放されて生じたものです。三陸沖、宮城県沖、福島県沖の各領域では、過去にも周期的に地震が発生してきたことが、文献記録や地層に残された津波堆積物などからわかっています。

今回の地震は、日本の観測史上類をみない大きな地震となりましたが、この原因が太平洋沿岸地域で観測された地震波の解析によって明らかになってきました。左の図からわかるように、今回の地震の特徴は、最初に①三陸沖で断層破壊がはじまり、この地震によって②宮城県沖、③福島県～茨城県北部沖の領域で連続して地震が誘発されたことです。この相互作用によって、南北約500km、東西約200kmという広大な領域を震源とした巨大地震となり、長時間にわたり地震動が続いたのです。茨城県では、揺れがはじまってから1分以上経過した後に最大の地震動を観測していますが、これは③福島県～茨城県北部沖を震源とする地震動によるものと考えられます。（教育課 木村正和）

難しい問題

このたびの東電福島第一原発事故は日本のこれまでのエネルギー政策に大きな課題を投げかけています。

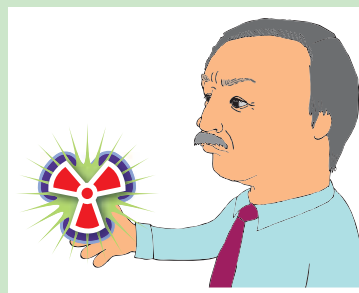
日本の燃料エネルギーの自給率は18%（原子力を除くと4%）で核燃料を原料とする原子力にたよる部分が極めて大きく、さらには地球温暖化への国際的な取り組みであるCO₂排出ガス削減にも大きく貢献するエネルギー源として原子力が期待されてきました。また、諸説ありますが、石炭、石油、天然ガスの化石燃料が

2006年度消費ベースでいくと、石油で42年、天然ガス60年、石炭133年で尽きるといわれるなかで、核燃料であるウランは100年といわれています。太陽光、風力、バイオマス等自然エネルギーの開発への取り組みもみられますが、化石燃料を代替するには時間とコストが相当かかります。

日本とフランスは突出して原子力の利用が高いのですが、とくに資源の少ない我が国のエネルギー政策を

コラム by director SUGAYA

どのように進めるか、今回の事故は極めて重大な課題を提起することになりました。



イラスト：太田有香（ミュージアムコンパニオン）

巨大津波の発生と液状化現象－東日本大震災による災害－

東北地方太平洋沖地震では、最大震度7の激しい揺れとともに、大津波が発生して東北地方を中心とした太平洋沿岸を襲い、未曾有の大震災となりました。茨城県でも、大津波が沿岸地域を襲い、また激しい地震動によってブロック塀などが倒壊し、液状化現象が多発するなど、各地で多大な被害がありました。

濁流が海岸を襲う－大津波

今回の地震では、海底の大規模な変動に伴って歴史上最大級の大津波が発生しました。東北地方の沿岸部は軒並み10mを超える大津波に襲われ、岩手県宮古市では標高40.5mの斜面上まで津波がかけ上がっています。茨城県の沿岸部も3～6mの大津波に襲われ、甚大な被害を受けました。六角堂が流失した北茨城市五浦では、波高が約10.7mに達していたと報告されています。

津波は通常の波浪と大きく異なります。波浪は、数秒～数10秒ごとに波が上下を繰り返します。ところが津波の場合、その間隔が長く、数分～数時間ごとに

まるで水の壁のように海岸に押し寄せてきます。津波はこの大量の水の重量が一気にかかるため、防潮堤さえも砕く破壊力をもっています。また今回、第一波よりも第二波、第三波のほうが波高が大きかったことが、人的被害を拡大させる要因のひとつになりました。

砂が噴き出し、地盤がゆがむ－液状化現象

今回の巨大地震では潮来市、神栖市をはじめ、埋め立て地などの地盤が軟弱な場所で液状化現象が多発しました。液状化現象とは、地下の水分を含んだ砂層が激しくゆすられたために、砂粒どうしの支え合いが崩れて液体のように動く現象です。この砂が地面の割れ目から噴水のように吹き出す噴砂もみられました。

今回の地震では、比重が大きい建物が沈んで傾いたり、比重が小さいマンホールが浮かび上がったりする被害が多発しました。激しい揺れが数分間もの長時間にわたり強く地面を揺らし続けたため、液状化現象が多発したと考えられます。（資料課 小池 渉）

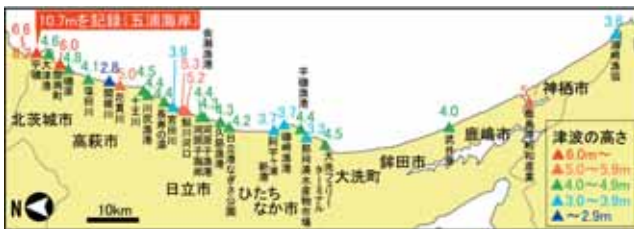


津波と崩落によって植生が消えた二ツ島（北茨城市）



液状化現象で生じた噴砂（日立市）

提供：田切美智雄



茨城県で観測された津波の高さ
（東京大学地震研究所資料をもとに作成）



液状化現象によって管生沼にかかる橋が持ち上がって生じた段差

地球のプレートのおはなし

第2展示室入口近くの両側の壁面展示をじっくりとご覧になったことはありますか。地球表面をおおうプレートの種類と、そのプレートの動きについてみることができます。

地球の表面は十数枚のプレートとよばれる板のようなものでジグソーパズルのようにおわれています。プレートの厚さは約100kmで、深い海の底にある海嶺で生まれ、年間数cmの速さで移動し、海溝で地球内部に潜り込んでいると考えられて

います。そして、プレートとプレートが接する境界では強い力がはたらいっているため、地震や火山活動が活発に起こります。

じつは日本列島の近くには4枚のプレートが集まっているため、とくに地震や火山活動が多いのです。

地震や火山活動は地球が生きている証拠であり、地球は長い年月をかけてその姿を少しずつ変化させているのです。

（ミュージアムコンパニオン 五明千晶）

小さな発見－ミュージアムコンパニオン－



第2展示室 地球のプレート運動

第52回
企画展

昆虫 大冒険

— タケルとケイの不思議な旅 —

Adventures in the Insect World "The Wonderful Trip of Takeru and Kay"

昭和40年代のはじめ頃、私の家のまわりではまだまだ虫は多く、カシの木をめぐらした農家の庭先ではカトムシやコクワガタ、運がよければノコギリクワガタが採れました。そんな虫たちをカゴいっぱい集めたり、夏休みの宿題に昆虫標本を提出したりすることが、普通に行われた時代でした。時は流れて40年、かつての昆虫少年も父親世代になりましたが、環境は一変しました。

この企画展では、地球上に生息する種数が100万とも300万ともいわれ、その種の多様性もさることながら、生き様も千差万別であらゆる場所でさまざまな工夫をしながら生きている昆虫を紹介します。そして、子どもをもつ親たちが“虫”をとおして子どもたちと自然の不思議さを語り合えるきっかけづくりができるような工夫を行います。

展示のナビゲーターは、タケルとケイの兄妹です。さあ、どんなストーリーが展開するのでしょうか？

(資料課 久松正樹)

〈物語〉

プロローグ

タケルとケイは、夏休みのある日、今までみたことのないようなきれいなチョウをみつけます。夢中で追いかける兄妹。輝くチョウを追いかけた二人は、昆虫ワールドに迷い込んでしまいます。

さまざまな昆虫

昆虫ワールドに迷い込んだタケルとケイ。昆虫の種類の多さに驚きながら、同じ種類なのに地域によって模様が違ったり、さまざまな色の昆虫がいたりすることに気づきます。

昆虫の不思議な生態

昆虫の種類の多さや姿の多様さに驚いた二人は、さらに昆虫の生きる工夫を知ることで、生きものとしての不思議さに驚かされます。

虫と人との今むかし (エピローグにかえて)

昆虫の不思議な生態に圧倒されはじめたタケルとケイは、意外にも人と昆虫とは深いかかわりがあることを知ります。昆虫の世界に迷い込んで、身近にすむ昆虫の姿を知った二人の兄妹は…。



オオクワガタ
日本のクワガタムシ、カトムシ全種を展示します



トリバネアゲハ
西イリアンで採集したトリバネアゲハを展示します



ニホンミツバチ
虫と人のかかわりで、昆虫食についても紹介します

会 期 2011年7月9日(土)～
9月19日(月)

開館時間 9:30～17:00まで
(入館は16:30まで)

休 館 日 毎週月曜日

※7月18日(月)、9月19日(月)
は開館し、翌日が休館とな
ります。

※8月15日(月)は開館し、振
替休館はありません。

記念行事

○オープニング講演会

自然講座「昆虫の不思議」

日時: 7月9日(土) 13:30～15:00

講師: 矢島 稔氏(ぐんま昆虫の森園長)

場所: 博物館内

対象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員: 300名(先着順)

○連続昆虫観察

7月30日(土) 菅生沼のトンボ

講師: 廣瀬 誠氏(県環境アドバイザー)

8月6日(土) 砂はきバチの不思議

講師: 山根爽一氏

(茨城大学教育学部教授)

8月13日(土) トラップでゴキムシ調査

講師: 松本和馬氏

(森林総合研究所森林昆虫研究領域)

8月20日(土) チョウの魅力

講師: 井上大成氏

(森林総合研究所多摩森林科学園)

8月27日(土) アリジゴクを探せ

講師: 榎本友好氏(県環境アドバイザー)

場所: 博物館 野外

時間: 午前の部 10:30～11:30

午後の部 13:30～14:30

対象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員: 午前、午後ともに30名(先着順)

※場所、時間、対象、定員は各回共通です。

○昆虫研究発表会

小学生の自由研究から最新の研究まで、
昆虫を研究する人が一堂に会し、自分た
ちの研究を発表します。

日時: 7月24日(日) 10:00～12:00

場所: 博物館内

対象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員: 300名(先着順)

○江戸家猫八師匠による
虫の鳴き声聞き会

名人芸・師匠の昆虫の鳴き声は必聴です。

日時: 8月7日(日) 13:30～15:00

場所: 博物館内

対象: 小学生以上(小学生は
保護者同伴)

定員: 300名(先着順)



君も学芸員になろう

～ジュニア学芸員10年を振り返って1～

当館が行っているユニークな事業に「ジュニア学芸員育成事業」があります。これは、中学生や高校生（3年生までの高等専門学校生を含む）に、自然に関する調査研究活動や博物館の教育普及活動など学芸員が普段行っているさまざまな活動に、博物館スタッフの指導を受けながら、継続的に取り組んでもらう事業です。

2001年6月にこの事業がスタートし、ちょうど10年が経過しました。今年の夏にはジュニア学芸員のOBを交えて10周年の記念行事を行う予定です。そこで、当館のジュニア学芸員の活動のようすについて、これから4回にわたって紹介していきます。

この事業のねらいは？

この事業は次の3つのねらいで実施しています。

- ①自然に関心のある中学生や高校生に、自らが設定したテーマについて、とことん自然に向かい合う機会を提供し、自然を科学的にとらえ、考える力を養う。
- ②ジュニア学芸員どうしが、共同で調査をしたり、まとめや発表するために意見を交わしたりすることで、コミュニケーション能力を育む。
- ③調査研究活動や教育普及活動を経験することにより、博物館の役割について理解を深め、博物館のよき理解者を育てる。



ジュニア学芸員によるスポットガイド

どんなことをしているの？

最初の1年は養成講座を受けます。「植物標本作成講座」や「化石の採集やクリーニング実習」など、観察の方法や資料の整理のし方、調査結果のまとめ方など、基本的なことを学び、1年間の活動が認められると晴れてジュニア学芸員として認定されます。

認定を受けたジュニア学芸員は、博物館スタッフのアドバイスを受けながら自分の興味・関心に沿った活動テーマを設定し、活動計画を立てます。博物館スタッフと一緒に野外調査に出かけることもあります。

活動結果は、毎年、3月の「活動発表会」で発表します。1年間の調査研究活動や教育普及活動に取り組んだ結果について、お互いに報告し合います。そのようすは、来館者にも公開されます。

ジュニア学芸員に応募するには？

ジュニア学芸員は自然に関心の高い中学生や高校生であれば誰でも応募できます。ただし、1年目に行われる養成講座にすべて参加できることと、各自で博物館まで来ることができることが必要です。

今年も16名の新規ジュニア学芸員の養成講座や、認定済みのジュニア学芸員の活動がはじまりました。今後の活動が楽しみです。（教育課 木村正和）



昨年の福島県南相馬市での化石調査

東日本大震災の被害

今回の地震で、当館の水の生きものにも危機的状況が起きました。地震による停電で電気や水が使えなくなりました。水槽を管理するには致命的です。しかし、当館には自家発電設備があったため、なんとか電気が確保できました。しかし、地震発生から11時間後の12日午前2時に燃料切れに…。完全に電気が止まり、水を濾過すること、水槽内に空気をおくこと、水温を調節することなどができなくなりました。全滅を防

げない絶望的状況だったのです。湖沼水槽をみると、仕切りが壊れ、魚食性魚類しよくせいぎょるいに小型魚類が捕食されている始末。そのような状況で水槽の魚たちをみるのは複雑な心境でした。

その後、各方面の協力により燃料を確保し、12日午後1時に水槽の機械類の運転を再開することができました。なんとか魚の命を救うことができたのです。今回の地震で改めて、飼育員として生物の命を預かることの責任と危機管理対策の重要性を身

おさかな通信

をもって感じることとなりました。
(水系担当 大森教弘)



水槽の濾過装置

常設展示が新しくなりました

2011年4月より常設展示の一部をリニューアルしました。

まず、博物館の1階ディスカバリープレイスの「ちよっと拝見 学芸員の研究」のコーナーを「都会（常盤松）の自然」コーナーに展示替えしました。東京都渋谷区東にある「常盤松御用邸」は常陸宮様のお住まいです。その御用邸において昆虫や植物の調査を行った結果をもとに、敷地内の豊かな自然を紹介しています。常陸宮様には、当館の開館記念式典及び開館10周年記念式典に御臨席をいただき光栄を賜っております。このご縁もあり、常盤松御用邸において生物調査

をさせていただくことになりました。コーナーでは調査で採集した標本に加えて、常陸宮様が手ずから採集されたテングチョウの標本も展示しています。

また、1月10日まで開催していた第50回企画展「筑波山ーブナとガマと岩とー」に展示していた筑波山のブナの分布立体地図を、ディスカバリープレイスに常設展示として移設しました。筑波山に生育する7,073本のブナの分布のようすを立体的にとらえることができます。

新しい展示が加わったディスカバリープレイスをぜひご覧ください。（資料課 小松崎茂）



「都会（常盤松）の自然」コーナー



筑波山のブナの分布立体地図

ひたち海浜公園でみられる絶滅危惧植物

6月中旬になると、ひたちなか市の国営ひたち海浜公園とその周辺では、絶滅危惧植物に指定されたハナハタザオやオオウメガサソウが花を咲かせます。

ハナハタザオはアブラナ科の越年草で海浜公園では海岸の砂浜に生育します。日本では関東から九州の海浜や草原にまれにみられる植物とされていましたが、現在では茨城県のほかには山梨県の富士山麓でしか生育の報告がない極めてまれな植物となっています。

一方、オオウメガサソウは小さな植物ですが、イチヤクソウ科の常緑低木で、海岸に近いアカマツ林内に生育します。こちらは北海道から岩手県に分布しますが、それより南の生育地はひたち海浜公園周辺のみであり、この地域が分布の南限となっています。

ひたち海浜公園では、これらの植物をはじめ貴重な海浜植物の保全に取り組んでいます。当館ではこれらの植物や保全の取り組みについて来年3月からはじまる第54回企画展「レッド

データブックの植物（仮称）」で紹介する予定です。

今回の大地震では津波による被害が甚大で、東北地方から関東地方の海岸に大きな傷跡を残しました。それは海岸を生育地とする植物たちにとってもたいへん厳しいものとなりました。茨城県でも北茨城市から神栖市までの海岸のいたるところで被害が報告されていますが、ひたち海浜公園では幸いなことに大きな津波の被害はありませんでした。被害のあった海岸地域のいち早い復興を祈るばかりですが、無事に残ったこの貴重な自然を私たちの責任で守り、後世に引き継いでいきたいものです。（企画課 小幡和男）



ハナハタザオ



オオウメガサソウ

トピックス

〇月のクレーターと春の星座観察

第51回企画展「46億年の旅路の果てに一隕石がみてきたもの」を記念して、5月7日にイベント「月のクレーターと春の星座観察」を行いました。しかし、集合時刻には空に厚い雲が立ち込めていたため天体の観望はあきらめ、セミナーハウスで雨天時用のレクチャーをはじめました。

レクチャーはもちろん月がテーマです。月の大きさや質量などの基本的なものから、地球と月の距離が変化するため起こる月のみかけの大きさの変化やクレーターのでき方など、少し難しい内容を織り交ぜて話しました。レクチャーの最後に流した月周回衛星かぐやの映像には歓声があがりました。

レクチャーに続いて企画展のガイドツアーを行いました。世界で唯一落下する前に宇宙空間で発見された隕石の話など、パネルやラベルでは紹介しきれなかった内容も含め、展示物の素顔を紹介しました。

企画展ガイドツアーから戻ると雲の切れ間から月が顔を出し、望遠鏡で月の観察を行うことができました。実際に望遠鏡でみる月には、かぐやの映像以上の歓声があがりました。
(教育課 木村正和)



月のクレーターについて企画展示室で説明しました

〇陸前高田市の標本を救え！

標本を未来に残すことは、博物館の使命のひとつです。博物館の収蔵庫には、押し葉や動物の剥製、岩石など、さまざまな標本が大切に保管されています。

東日本大震災は、このような標本にも重大なダメージを与えました。幸い当館では標本の被害はわずかでしたが、岩手県の陸前高田市立博物館は、津波で壊滅的な被害を受け、保管されていた標本も海水や泥をかぶりしました。陸前高田市立博物館は、岩手県の中でもっとも歴史が古く、明治時代の貴重な標本も多数収められています。これらの標本を救おうと、岩手県立博物館のよびかけで、全国25の博物館が立ち上がりました。各博物館で手分けをして、標本の修復を行うことになったのです。5月13日、当館にも300点の植物標本が届きました。箱を開けると、腐りかけている標本、泥やカビでおおわれ

た標本などが次々とあらわれました。津波の被害を肌で感じ、胸が締めつけられる思いでした。これらの標本は、当館職員の手で1点1点水に浸して塩抜きをし、汚れを落とす作業を行っています。博物館として震災の復興のためにできることを、ひとつずつはじめていきたいと思っています。
(資料課 鶴沢美穂子)



被災した標本(左)と修復後の標本(右)

〇韓国国立生物資源館へ生物標本を寄贈しました

当館は、昨年3月、韓国の国立生物資源館と協力関係の覚書を締結しました。これは日韓両国の生物資源に関する研究と展示において、長期的な協力関係をめざすもので、内容は、生物標本の交換、研究者の交流、共同研究の推進、セミナーの共同開催、展示の共同企画などとなっています。生物資源館は、2007年、韓国環境省がインチョン市郊外に設立した研究と展示の両方の機能を兼ね備えた施設です。

その協力関係の交流の一環として、このたび、当館から生物資源館に植物と昆虫の標本を寄贈しました。植物標本は茨城県および近県で採集された種子植物とシダ植物489種906点、昆虫標本は茨城県産チョウ類89種215点です。5月16日、当館の昆虫担当の久松首席学芸主事と植物担当の私が生物資源館を訪問し、キム館長に標本の贈呈を行いました。

今後、茨城と韓国との友好関係がさらに深まり、日韓両国の博物館活動が推進するように、生物資源館との協力を続けていきたいと考えています。(企画課 小幡和男)



キム館長へ標本を贈呈しました(左から小幡、キム館長、久松、ハン科長)

東北地方太平洋沖地震による資料の被害と復旧



いろいろな鉱物コーナーの被害状況

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では当館も震度6弱の揺れにみまわれ、展示・収蔵資料に被害を受けました。博物館建設にあたり震度5程度の地震に耐えられるよう設計されていましたが、想定外の大きな揺れのため展示室、収蔵庫に展示・保管されていた資料の一部が破損しました。地震の揺れが収まり人的被害の無いことを確認後、停電で暗闇のなか、懐中電灯を手に施設内部の巡回を行いました。揺れの大きさの割には建物の損壊や資料の破断などの重大な被害は少なく胸を撫で下ろしました。それでも、翌12日の資料課員全員による点検の結果、展示室では、資料の落下、破断、破損、機器の故障などが44か所確認されました。そのなかでは恐竜のヌオエロサウルス尾椎骨の落下による破損、デイノニクス、ティラノサウルス尾椎骨の破損やディスカバリープレイス植物コーナーガラスの破損、テングギンザメホルマリン液浸標本のホルマリン流出がみられました。収蔵庫では、机



ティラノサウルスの補修と吊り元強化作業

上の顕微鏡が落下して割れる等の被害がありました。

当館ではできるだけ早い開館を目指し、急ぎ関係業者と連絡を取り、大型展示資料の吊り元点検、すべての展示資料の安全点検、照明類の点検、情報管理機器類の点検とともに被害を受けた資料の修繕や吊り元強化作業を行いました。あわせて、展示室での照明類の節電を実施し、4月1日に開館する運びとなりました。

茨城県自然博物館職員一同、東日本各地の博物館の大震災からの復興を心から祈っております。

(資料課 国府田良樹)

編集後記

大震災の日、私は茨城県水戸市で一晩を過ごしました。停電で暗闇の中、不安でいっぱいになりましたが、ふと空を見上げるときれいな星空。自分の無力さと変わらぬ自然の力強さを同時に感じた瞬間でした。

7月から開催する企画展は「昆虫」が主役です。昆虫は恐竜がいた時代よりもずっと前から繁栄し、厳しい自然のなかでたくましく生き続けているのだとか。そんな昆虫の「力強さ」を、ぜひ企画展で感じてみてください。(M.S)

交通案内



〈車ご利用の場合〉

- 常磐自動車道谷和原ICから20分
- 〈鉄道・バスご利用の場合〉
- つくばエクスプレス守谷駅下車
～関東鉄道バス「岩井行き」又は「猿島行き」乗車
～「自然博物館入口」下車、徒歩5分
- 東武野田線愛宕駅下車
～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
～「自然博物館入口」下車、徒歩10分



〔開館時間〕

9:30から17:00まで
(入館は16:30まで)
※ペット及び遊具、テーブル、椅子、テント等のお持ち込みはご遠慮ください。

〔入館料〕

区分	本館・野外施設		野外施設のみ	年間パスポート
	企画展開催時	通常時		
大人	720円 (580円)	520円 (420円)	200円 (100円)	1,500円
高校・大学生	440円 (300円)	320円 (200円)	100円 (50円)	1,000円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	300円

(注)：()内は団体料金(20名以上)
未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
次の日は入館料が無料です。
●5月4日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)
●11月13日(茨城県民の日) ●春分の日
●高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日
(ただし、春・夏・冬休み期間を除きます。)

〔休館日〕

●毎週月曜日
※6月14日(火)～6月19日(日)は補修工事により野外施設のみ開館となります(本館は休館します)。
※6月20日(月)～6月27日(日)は館内整理のため休館となります。
※7月18日(月)は開館し、翌日が休館となります。
※8月15日(月)は開館し、振替休館はありません。



自然博物館ニュース A・MUSEUM(ア・ミュージアム)
A・MUSEUM (AMUSEMENT+MUSEUM)

企画・編集ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課/発行2011年6月15日
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL0297-38-2000 FAX0297-38-1999
URL <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>
E-mail webmaster@nat.pref.ibaraki.jp
メールマガジンも配信。登録はホームページから

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。